

第7巻「語用論」演習問題の解答と補足事項

2012.11.06

●序章

○演習問題の解答

1. 単語 distinction の文字数の数え方として、「11 文字」と「7 文字」の2つの数え方がある。その数え方の違いは何に由来するか。

文字のトークンを数えると11文字になり、タイプを数えると7文字になる。

2. 次のそれぞれの例で問題にしている「意味」は、意味論的意味（字句通りの意味）、語用論的意味（言語使用の場での意味）のいずれであろうか。あるいは、それらのいずれでもないであろうか。

a. 「でも和子の家はお金持ちでしょう。だって和子のお父さん、小説家じゃない？うちのママがこのあいだこういってたわよ。世の中に医者と土地成金と小説家ぐらいぼろいのはない、って」

「ぼろいってどういう意味？」

「もうかる、ってことらしいわよ」（井上ひさし『ドン松五郎の生活』）

「ぼろい」という単語の意味、つまり、意味論的意味が問題となっている。

b. 玄関にとび込んできたのは例の課長補佐である。

「この鬼哭温泉が陸の孤島になってしまったんですよ」

「陸の孤島だと」

石上は課長補佐を睨み据えた。

「どういう意味かね」

橋が、あの鬼哭橋が流されてしまったんです」

（井上ひさし『四捨五入殺人事件』）

石上は、課長補佐が「陸の孤島」という発話でどういう状況のことを言っているか問うているので、語用論的意味が問題になっている。「陸の孤島」という表現の意味を問うているのではない。

c. Tom: Mrs. Reynolds, do you mind if I don't come to tea this afternoon?

Laura Reynolds: Why...if you don't want to...How are you? (She really means this question.) (R. Anderson *Tea and Sympathy*)

ト書きは、ローラの発話'How are you?'が、普通よく用いる挨拶行為ではなく、文字通りの意味の体調を尋ねる質問行為であると説明している。つまり、意味論的意味に基づく対人的意味、つまり、語用論的意味を問題にしている。

d. George: I'm having a problem with cancer.

Sam: I don't...I don't know what that means. What kind of a problem?

George: The kind where there isn't any answer.

Sam: I still don't know what it means. (*Life as a House*)

サムは、ガンになるとどういう結果になるかと問い、父親ジョージは、死という答えのない結果になると答えている。従って、2つの事柄の関係が問題になっているので、意味論的意味も語用論的意味も問題にはなっていない。

e. Alan: Then we'll all go to jail together.

Bob: What do you mean by that?

Alan: Just what you think I mean.

Bob: Are you threatening me?

Alan: Well, yeah, I guess I am. (*Dave*)

ボブは、アランの発話“**Then we'll all go to jail together.**”が「おどし」という対人的意味なのかと問うている。従って、語用論的意味が問題となっている。

○補足事項

(22) (pp. 22-23)の例の弁護士の発言のように、「あることを伝えようと意図するが、その意図を相手に悟られないようにする」発言は、第6章(p. 112)で解説している「言外にほのめかす(Off-record)」ストラテジーを使った例も考えられる。例えば、ペンを忘れたが、隣の人に貸してくれるよう直接頼むのがはばかれるようなとき、独り言のように次の文を口にする場合がそうである。

Oh, I've left my pen somewhere.

この場合、借りたいという意図を伏せてほのめかし(off-record)、相手がその意図を推測するよう仕向けるのである。

●第1章

○演習問題の解答

1. 次の文の発話が表す2つの対象の位置関係を図示せよ。

The parking lot is behind the building.

behind は方向付けの直示表現で、話し手を基準にして「駐車場は建物の向こう側」という意味で用いるが、前と後ろとが決まっているものの場合、) 話し手以外のところに基準点を移動することがある。たとえば、建物の場合、正面玄関を基準にして **behind** を使うと、「建物の裏に駐車場がある」という内容になる。)

2. 次の2つの例における **now** の違いを述べよ。

a. I'm busy now.

c. Most people do not believe in ghosts now.

a の **now** は、発話時を中心として、数十分、数時間、数日、数ヶ月とかなり色々な幅の時間に用いられるが、長くても数年くらいであろう。**b** では発話時を基準として、数十年とか100年という幅であろう。

3. 次は看護師とひねくれ者の老人の患者ウィリーとの会話である。we はだれのことを言っているか。

Nurse: Oh, woke up a little grouchy, didn't we?

Willie: Stop making yourself a partner all the time. (N. Simon *The Sunshine Boys*)

看護師の使っている **we** は「親心(paternal)の **we**」でウィリーのことを指している。しかし、ひねくれ者のウィリーは、わざと文字通りの意味にとって、**partner** みたいな扱いは止めてくれと言っている。**partner** は、単に「仲間」、「相棒」という意味だけでなく、「配偶者」、「同棲者」など色々な意味で使われる。

4. 英語と日本語の直示表現の違いにはどういうものがあるか？ 例えば、地図上の「現在地」は英語ではどう表現するか？

英語では **You are here.** と聞き手(人)が主語となり、**here(ここ)**にいと表現されるが、日本語では<現在地>と場所のみ表現され、人の存在は表現されない。

5. 次の英文の前提は何か？

He knows that the earth is round.

前提は **the earth is round(地球は丸い)**の部分である。なぜなら動詞 **know** は叙実述語(factive predicate)であり、**that** 節内が前提で **He doesn't know that the earth is round** と否定にしても **that** 節の内容は常に成り立つので、前提となっている。**Kiparsky and Kiparsky "Fact"** で指摘されているように、主語が1人

称の否定文 **I don't know that the earth is round** では、**that** 節内は必ずしも事実ではなくなるので注意。

6. 次は誘導質問 (loaded question) と呼ばれるものである。アコモデーションがどのように使われているか。

"Have you stopped beating your wife?" (<http://www.fallacyfiles.org/loadques.html>)

この質問に答えるということは、アコモデーションにより **stop** の持つ前提(**I have been beating my wife.**)を受け入れることになる。そうすると、**Yes** と答えても妻を殴っていたと言ってしまうことになる。また、**No** と答えると、さらに今も妻を殴っていると言っていることになる。従って、この **yes-no question** は、**Yes** と答えても **No** と答えても妻を殴ったと言っていることになる。

7. 次はフィオナの息子マーカスが70年代の「ダサイ」歌を歌うとどうなるかと言っている。下線部はどういう働きをしているか。

Will, to Fiona: But for real, if he sings that song in front of those kids you can just write him off till he reaches university, if he reaches university. (*About a Boy*)
(that song = Roberta Flack's *Killing Me Softly*, write off = だめにしてしまう)

時間を表す節 **till he reaches university** は、マーカスが大学に行くことを前提にするが、下線部の **if** 節が加わることにより、その前提が保留(suspend)される。

8. 次の英文はどのように意味が拡充されるか？ ((b)の例は下線部の発話)

a. Mary has a temperature. (メアリーは、熱がある)

人間が生きている場合は熱があるのは当然であるので、わざわざ熱があるという場合には、<ふだんより高い熱がある>とか<39度の熱がある>という意味へと次の下線部のような意味の拡充が行われる。Mary has a higher temperature. /Mary has a temperature of 39.

b. A: How is Jane feeling after her first year at university?

B: She didn't get enough units and can't continue. (Carston (1988))

(What units? Enough for what? Continue what?)

カーストンは、Bの発話をAは次のように解釈すると説明している。

Jane didn't pass enough university course units to qualify for admission to second year study, and, as a result, Jane cannot continue with university study. Jane is not feeling at all happy about this.

最後の下線部は、意味の拡充ではなく、2章で扱う「会話の含意」になる。

●第2章

○演習問題の解答

1. 例文(19)から(22)について、それぞれどのような公準に違反し、どのような含意が解釈できるか。ヒント：(22a), (22b)は、それぞれ X is X, X is not X という形をしている。

(19) They [= two dresses] both say to me, "I'm easy." And you don't want that, dear, you want to be Kilimanjaro on your first date: inaccessible. (*Mrs. Doubtfire*)

(19)は人間を山でたとえているメタファーであるが、文字通りの意味では人間が山であると信じているはずがないので、質の公準の違反である。解釈は、直後の **inaccessible** と言い換えられているように、「初めてのデートですぐに男女の関係になるような簡単な女だと思われたいようなキリマンジャロのように攻略が難しい女性でいる」というようなものになる。

(20) "Prosser on Torts"? "Civil Procedure"? A little light reading this morning, Miss Lou? (*Doc Hollywood*)

(20)の緩叙法は、非常に難しい本を朝から読んでいるルーさんに対して、「ちょっと軽い読書 (a little light reading)」と現実よりも控えめに言っている。控えめということは、実際に信じている事実は差が出るという意味で質の公準に違反している。この場面では、朝のカフェでそんな難しい本を読む女性に対して、皮肉を伝えている。

(21) a. 昨日の部活の練習はきつかったあ！5人くらい死んでたもん。
b. (子供が父親にハグしないことを心配している妻と夫との会話)

Robin: It would worry me.

Peter: If I let everything that should worry me worry me... I'd be dead from worry. (*Life as a House*)

(21)の誇張法では、「部活の練習で死んだ」、「I'd be dead from worry」と現実よりも極端に強めていっているので、これも質の公準に違反している。両例とも、「死ぬ」という語を使うほど意味を強調したいのであり、(21a)では「練習がとてつもなく厳しかった」、(21b)では「心配で心配でしょうがないだろう」という解釈になる。

(22) a. やっぱ、子どもは子どもだ。

(22a)は同語反復は、情報的に新しいものや価値のあるものを加えているわけではないので、量の公準に違反している。解釈はコンテキスト次第で色々な可能性があるが、たとえば、普段から大人びた振る舞いをしている小学生の息子がアニメのキャラクターグッズがどうしても欲しいとだだをこねている様子を見ている両親の会話で行われたというコンテキストであれば、「まだまだ幼くて可愛いところもあるんだ」というような解釈になる。

(22) b. (シャガールの絵(a floating wedding couple, with a goat as company)のポスターを見ながら)

Anna, to William: Happiness isn't happiness without a violin-playing goat.
(*Notting Hill*)

(22b) は **X is not X** という形をしており、形式的には世界のあり方とは関係なく常に偽な矛盾文である。この点で、同語反復と同様に形の上では有意義な情報を与えていないので量の公準に違反している。また、間違ったことを言っているという点で、質の公準にも違反している。しかし、再解釈されることがよって有意義な情報を伝えることができる。この場合は、結婚したカップルとバイオリンを弾いている山羊とは一体となって **happiness** を表現しているので、山羊がいなければ **happiness** も不完全なものになってしまう、といった解釈が考えられる。

(22) c. Gertrude: ... You don't mind, do you, if Arthur escorts you in my place?

Mabel: As long as he promises not to be serious, for I have observed a worrying trend [to be serious].

Arthur: I swear on my life to be utterly trivial and never to keep my word.

Mabel: In which case, I shall be delighted. (*An Ideal Husband*)

(22c)は、実質は **I promise not to keep my promise.** といったナンセンスなことを言っている。これは、嘘つきのパラドックスと似た構造をしており（真と仮定すると結論が偽になり、偽と仮定すると結論が真になってしまう）、文字通りの解釈ではナンセンスで、同語反復や矛盾文と同様に量の公準に違反している。この例では、アーサーの発言自身が、まじめな(**serious**)言い方ではなくくだらない(**trivial**)言い方になっているので、実例でもって「私はこのようにまじめな言い方はしません」ということを示している。そして、メイベルは、この例からアーサーはまじめ一方の人ではないということを了解している。

2. 協調の原則や会話の公準は、生得的なものか、学習するものか、どちらの考え方が妥当か。具体的な事例を元に意見を述べよ。

(解答例)

協調の原則や会話の公準は、後天的に学習するものであると考えるべきである。これらの法則は情報と合理的で効率的に伝達する場合を扱っているが、どういった情報が協調的で、量、質、関係、様態の公準に従っているかを判断できるようになるには、その言語コミュニティでの会話経験がないと決定できないというように考えられる。例えば、小学生低学年以下の子どもでは、会話の途中で協調の原則で示されているような共通の目的には全く関連がない、つまり、関係の公理に違反している会話を平気で行う。

(1) 父: おとうさんが大学生の時フラミンゴっていう名前のサッカーサークルに入って、毎週サッカーやってたよ。

子：へえ、何してたん？キーパー？

父：ちがうよ、ミッドフィルダーだったよ。

子：あんなあ、昨日な、山田（＝子の友達）とミラバト（＝カードゲーム）やったんやけどなあ。山田がドフラ（＝ド・フラミンゴというアニメのキャラクター）のがレアなカードでなあ、、、

(1)では、子どもの視点からすると、サッカーチームのフラミンゴという名前から、子どもの好きなアニメに出てくるド・フラミンゴというキャラクターの名前を連想し、そのキャラクターの連想から、そのカードを使って遊んだときのことを話し始めている。このような会話の展開は子どもに見られるが、このような連想が会話の流れにおいて「関係がある」かどうかは、学習していく必要があると言える。

3. 次の例で、ベンの下線部の発話はどの公準に違反しているか。また、それによってどのような含意が生まれているか。

(別れた恋人 Elaine を追っかけて UC Berkeley まで来た Ben の下宿を、その Elaine が逆に訪ねて来た場面)

Elaine: I wanna ask you a question and then I'm going!

Ben: Come in.

Elaine: No. I wanna know why you are here in Berkeley?!

Ben: Because...I am. (The Graduate)

ベンが **I am here because I am here.** (来たから来たんだ) と言っているが、情報量としては、単に「ここに来た」とわかりきったことを言っているだけである。しかし、含意のレベルでは、「理由なんかどうだっていいだろう、言いたくないよ」といった含意を持つ。

4. 次の例について、問に答えよ。

(ヤクザっぽい男ソニーが、資産に損失が出るので、会計弁護士のエイヴアリーに脅しをかけている場面)

Sonny: ...Hey, you don't know me. I'm a nice guy. You lose a million bucks for me...I'm not gonna hurt you. I'm not gonna break your legs.

Avery: Sonny, let's don't get carried away here, all right? (The Firm)

i. 下線部の発話はどの公準に違反しているか。

実際に態度から判断できる行為は脅しであり、発話の文字通りの意味を信じているとは思えない。質の公準に違反する発話である。

ii. 公準に違反しない発話に言い換えるとすれば、どのようなになるか。

I'm a nice guy. → I'm not a nice guy.

I'm not gonna hurt you. → I'm gonna hurt you.

I'm not gonna break your legs. → I'm gonna break your legs.

iii. 公準に違反した発話と違反しない発話とでは、その効果にどのような違いがあるか。

公準に違反しない発話では脅しが明確にわかる。確かに脅しという怖ろしい発話行為であるが、文字通りの意味で表している内容が上限で、それ以上の怖さは感じない。一方、公準に違反する発話では脅しは含意として解釈されると同時に、ソニーの言葉と本心の差に不気味なものを感じるという付加的な効果が現れる。そのような不気味な効果によって、ソニーがとてつもなく怒っており、その怒りの質も異常な感じであるかのような推論をさらに進めることになる。

○補足事項

a. 例(3)の論理的推論についての補足

(3) Doc : Now remember, according to my theory, you interfered with your parents first meeting. If they don't meet, they won't fall in love. They won't get married and they won't have kids. That's why your older brother's disappearing from that photograph. Your sister will follow and unless you repair the damage, you'll be next.

ここでは次のようなモーダス・ポネンスが使われている。

If they don't meet, they won't fall in love.

If they don't fall in love, they won't get married.

If they don't get married, they won't have kids.

If they don't meet, they won't have kids.

これにより次のような理由付けができる。

They didn't meet, so they won't have kids. That's why your brother is disappearing from the photograph.

このような推論ができるのは、*if-then* (\rightarrow)の関係が推移的(transitive) であるからである。

Transitive relation of *if-then* (\rightarrow):

$P \rightarrow Q$ and $Q \rightarrow R$, so $P \rightarrow R$

If A, then B.

If B, then C

If C, then D

If A, then D

この関係は、次のように単純なモーダス・ポネンスを順次適用していくことによって確かめられる。

They don't meet.

If they don't meet, they won't fall in love.

They won't fall in love.

If they don't fall in love, they won't get married.

They won't get married.

If they don't get married, they won't have kids.

They won't have kids.

b. 例(4)におけるホームズの推理については、内井惣七 (1988)『シャーロック・ホームズの推理学』講談社新書（現在は、内井惣七 (2004)『推理と論理—シャーロック・ホームズとルイス・キャロル』ミネルヴァ書房、に収められている）に詳しい分析と解説がある（4—観察と推理、5—消去による推理、6—消去による帰納）。

例(4)に先行し、郵便局にワトソンが行ったことが観察によって分かる部分を補っておく。

...“For example, observation shows me that you have been to the Wigmore Street Post-Office this morning, but deduction lets me know that when there you dispatched a telegram.”

“Right!” said I. “Right on both points! But I confess that I don't see how you arrived at it. It was a sudden impulse upon my part, and I have mentioned it to no one.”

“It is simplicity itself,” he remarked, chuckling at my surprise – “so absurdly simple that an explanation is superfluous; and yet it may serve to define the limits of observation and of deduction. Observation tells me that you have a little reddish mould adhering to your instep. Just opposite the Wigmore Street Office they have taken up the pavement and thrown up some earth, which lies in such a way that it is difficult to avoid treading in it in entering. The earth is of this peculiar reddish tint which is found, as far as I know, nowhere else in the neighbourhood. So much is observation. The rest is deduction.”

Sir A. Conan Doyle, *The Sign of Four*

c. 2.5.3 項(pp. 49-50)で解説している情報伝達以外についての会話の公準については、第5章の補足事項を参照してください。

●第3章

○練習問題の解答

〔練習問題 1〕 $P \wedge Q$ と $Q \wedge P$ 、 $P \vee Q$ と $Q \vee P$ が同値になることを真理表で確かめよ。これに対し、 $P \rightarrow Q$ と $Q \rightarrow P$ とは同値でないことを確かめよ。

and (\wedge)の真理表

P	Q	$P \wedge Q$
T	T	T
T	F	F
F	T	F
F	F	F

\wedge の真理表は、順序を入れ替えた T, F の組み合わせ<T,F>, <F,T>に対していずれも同じく F が対応するよう規定している。したがって、次のように P, Q 順序が入れ替わっても真偽は一致する。

P	Q	$Q \wedge P$
T	T	T
T	F	F
F	T	F
F	F	F

or (\vee)の真理表

P	Q	$P \vee Q$
T	T	T
T	F	T
F	T	T
F	F	F

おなじく、 \vee の真理表は、順序を入れ替えた T, F の組み合わせ<T,F>, <F,T>に対していずれも同じく F が対応するよう規定している。したがって、次のように P, Q 順序が入れ替わっても真偽は一致する。

P	Q	$Q \vee P$
T	T	T
T	F	T
F	T	T
F	F	F

if-then (\rightarrow)の真偽表

P	Q	$P \rightarrow Q$
T	T	T
T	F	F
F	T	T
F	F	T

\rightarrow の真偽表は、順序を入れ替えた T, F の組み合わせ<T,F>, <F,T>に対してそれぞれ F, T を対応させ、順序が変わると対応する真偽値も変わる。したがって、次のように P, Q 順序が入れ替わると真偽は一致しなくなる。

P	Q	$Q \rightarrow P$
T	T	T
T	F	T
F	T	F
F	F	T

【練習問題 2】 次の2つの命題が、同じ真偽条件になることを真理表で確かめよ。

- a. $\neg(P \wedge Q)$ と $\neg P \vee \neg Q$
- b. $\neg(P \vee Q)$ と $\neg P \wedge \neg Q$
- c. $(P \vee Q) \wedge \neg(P \wedge Q)$ と $(P \wedge \neg Q) \vee (\neg P \wedge Q)$

- a. $\neg(P \wedge Q)$ と $\neg P \vee \neg Q$

P	Q	$P \wedge Q$	$\neg(P \wedge Q)$
T	T	T	F
T	F	F	T
F	T	F	T
F	F	F	T

P	Q	$\neg P$	$\neg Q$	$\neg P \vee \neg Q$
T	T	F	F	F
T	F	F	T	T
F	T	T	F	T
F	F	T	T	T

2つの表の1番右列の真偽は一致している。

b. $\neg(P \vee Q)$ と $\neg P \wedge \neg Q$

P	Q	$P \vee Q$	$\neg(P \vee Q)$
T	T	T	F
T	F	T	F
F	T	T	F
F	F	F	T

P	Q	$\neg P$	$\neg Q$	$\neg P \wedge \neg Q$
T	T	F	F	F
T	F	F	T	F
F	T	T	F	F
F	F	T	T	T

2つの表の1番右列の真偽は一致している。

c. $(P \vee Q) \wedge \neg(P \wedge Q)$ と $(P \wedge \neg Q) \vee (\neg P \wedge Q)$

P	Q	$P \vee Q$	$\neg(P \wedge Q)$	$(P \vee Q) \wedge \neg(P \wedge Q)$
T	T	T	F	F
T	F	T	T	T
F	T	T	T	T
F	F	F	T	F

P	Q	$\neg P$	$\neg Q$	$(P \wedge \neg Q)$	$(\neg P \wedge Q)$	$(P \wedge \neg Q) \vee (\neg P \wedge Q)$
T	T	F	F	F	F	F
T	F	F	T	T	F	T
F	T	T	F	F	T	T
F	F	T	T	F	F	F

2つの表の1番右列の真偽は一致している。

【練習問題 3】 $P \rightarrow Q$ が、 $\neg P \vee Q$ および $\neg(P \wedge \neg Q)$ と同じ真理条件であることを真理表で確かめよ。

次の表のように、1番右の列はすべて一致する。

P	Q	$P \rightarrow Q$
T	T	T
T	F	F
F	T	T
F	F	T

$(\neg P \vee Q)$ の真偽表は次のようになる。

P	Q	$\neg P$	$\neg P \vee Q$
T	T	F	T
T	F	F	F
F	T	T	T
F	F	T	T

$\neg(P \wedge \neg Q)$ の真偽表は次のようになる。

P	Q	$\neg Q$	$P \wedge \neg Q$	$\neg(P \wedge \neg Q)$
T	T	F	F	T
T	F	T	T	F
F	T	F	F	T
F	F	T	F	T

【練習問題 4】 $P \rightarrow Q$ と $\neg Q \rightarrow \neg P$ が同じ真理条件になることを真理表で確かめよ。また、 P if and only if Q を $P \leftrightarrow Q$ とすると、 \leftrightarrow の真理表はどうなるか。

P	Q	$P \rightarrow Q$
T	T	T
T	F	F
F	T	T
F	F	T

$(\neg Q \rightarrow \neg P)$ の真偽表は次のようになり、1 番右の列は、上の表と一致する。

P	Q	$\neg Q$	$\neg P$	$\neg Q \rightarrow \neg P$
T	T	F	F	T
T	F	T	F	F
F	T	F	T	T
F	F	T	T	T

P	Q	$P \leftrightarrow Q$
T	T	T
T	F	F
F	T	F
F	F	T

【練習問題 5】 次の形の命題がトートロジーであることを真理表で示せ。
 $P \vee \neg P$ 、 $\neg(P \wedge \neg P)$ 、 $\neg P \rightarrow \neg P$

P	$\neg P$	$P \vee \neg P$
T	F	T
F	T	T

P	$\neg P$	$P \wedge \neg P$	$\neg(P \wedge \neg P)$
T	F	F	T
F	T	F	T

P	$\neg P$	$\neg P \rightarrow \neg P$
T	F	T
F	T	T

〔練習問題 6〕 $P \wedge \neg P$ の真理表を作れ。

P	$\neg P$	$P \wedge \neg P$
T	F	F
F	T	F

○演習問題の解答

1. 下線部で or both が付け加えられているのはなぜか。

(Day は記者で、ある殺人事件を探るため容疑者の弁護士の Robbie Flak に同行したいと申し出たが、Flak には取材内容の発表に条件を課されることになる場面)

Of course Day had been eager to tag along, but he had been forced to agree to a list of firm conditions that basically prevented him from reporting anything until so directed by Robbie Flak. If he tried, he and Buck the cameraman would in all likelihood be either beaten or shot, or both. (John Grisham *The Confession*)

一般に P or Q といえ、 P and Q の場合は排除される。ここでは 2 つの or があるが、まず最初の or でつながれている部分を問題にしたい。would in all likelihood be **either beaten or shot** という部分である。ここでは、記者のデイ (Day) とカメラマンのバック (Buck) は殴られるかもしれない (would in all likelihood be **beaten**)、あるいは、銃で撃たれるかもしれない ([would in all likelihood be] **shot**) と述べられている。ここでグライスによれば、殴られてかつ銃で撃たれる可能性は、一般化された会話の含意 (generalized conversational implicature) によって排除される (排除読み)。ところが、最後で **or both** という

ことによって、殴られてかつ銃で撃たれる可能性も排除されない（それもあり得る）ことが示されている（包含読み）。2 番目の **or** は口語でよく用いられるものであるが、この **or** は前にコンマがついていることから付加的な意味合いであることは明らかである。したがって、包含読みと考えてよい。

2. 次の **and** で結合した発話ではどのような意味が付け加わるか。そのような付加的意味を取り消すにはどのような語句を後続させればよいか。また、前後を入れ替えたとき、どのような効果が現れるか。

A string of firecrackers went off near the central stairwell, *and* panic swept the school.
(John Grisham *The Confession*)

(1) 2 つの節を **and** で結合することによって、記述されている 2 つの出来事の間には前後関係と因果関係が読みこまれる。つまり、学校の中央階段の近くで爆竹が連続して破裂し、そのあとで、また、その結果として、パニックが学校中に広がった、ということである。(2) 取り消すためには、たとえば“..., **but not necessarily in that order**”のような語句を付け加えることが出来る。(3) 前後を入れ替えると **Panic swept the school, and a string of firecrackers went off near the central stairwell.**となる。時間的前後関係は逆になるほか、爆竹が破裂したのでパニックになったという因果関係が読みこめなくなる。

3. 次はどのようなタイプのトートロジーであろうか。また、どういった解釈になるか。

Play it safe, Wayne countered. Just thirty days, maybe we'll learn something new about the case. But it's been nine years, Barry retorted. Enough is enough.

(John Grisham *The Confession*)

これは一種の定型句ないしはイディオムであり、**First things first** や **A man's got to do what a man's got to do** と同じように、解釈が語用論的な要因で変更されることはない。「もう充分である」という意味は文脈に関わらず不変である。

4. 下線部からどのような誘導推論が導出されるか。

There were six questions on the list that the lawyers had hammered out, and if the jury answered yes to number five, then the whole world would go crazy.

(John Grisham *The Appeal*)

誘導推論としては「もし 5 番目の質問に対してイエスと答えなかったら、まだ何とかなる余地が残されている」というところだろう。弁護側としては、裁判員に 5 番目の項目にイエスと答えられてしまうと、裁判に完全に負けてしまう、という場面である。

●第4章

○演習問題解答

1. 次の文章の第2段落は、作者ではなく主人公川久保の視点から描写されている。メタ表示を用いて、それを作者の視点から表現してみなさい。例：川久保は、「運転席から、作業着姿の中年男が降りてきた」のを見た。

男が川久保から視線をそらし、待合室の外に目を向けた。川久保も同じ方向に目をやった。一台のワゴン車が駐車場に入ってきたところだった。ワゴン車は警察車のうしろに停まった。

運転席から、作業着姿の中年男が降りてきた。この町で工務店を営む男だ。玉木徹三という名だったろう。町の公式行事で、二、三度顔を合わせたことがある。ひとあたりがよすぎるとさえ思える。如才ない印象の男だ。工務店の経営者にはめずらしいタイプだろう。（佐々木譲『制服捜査』）

最初のパラグラフは作者の視点から描写されているが、2番目のパラグラフは主人公川久保の視点からの描写に変わっている。2番目のパラグラフを作者の視点を維持して読むなら、主人公川久保の思考は、次のようなメタ表示で表すことが出来る。

川久保には、「運転席から、作業着姿の中年男が降りてきた」のが見えた。「この町で工務店を営む男だ」と判った...

2. 次の例では、Bの質問に対するAの答えがメタ表示になっている(Blakemore (1994))。

B: What did the article say?

A: Echo questions aren't interrogatives.

B: Echo questions aren't interrogatives?

この場合、Aの発話に対するBのエコークエスチョンはどのようなメタ表示になるであろうか。

Aの発話が、(a)のようなメタ表示になっているので、Bのエコークエスチョンは(b)のようなメタ-メタ表示になる。

a. The article says that echo questions aren't interrogatives.

b. You are saying the article says that echo questions aren't interrogatives?

3. 次の会話のウィルは、「自分は「島」のような人間で、だれからも孤立して生きている」と考えている。下線部の否定文は何を否定しているか。

Christine, to Fiona: ...He (= Will) always puts himself first.

Will: But I'm on my own. It's just me. I'm not putting myself first, because there's nobody else. (About a Boy)

「自分のことを一番に考える(He always puts himself first)」という言い方は、複数の人間がいるということを前提にしているが、自分は島のような人間で一人で生きているから、前提が満たされておらず不適切な発言だとウィルは言っている。つまり、発言が前提としていることを否定している。

It is not the case that I am putting myself first, because there is nobody else.

Noh (2000:131)は、音声など形式のメタ表示に関する否定を「メタ言語否定 (metalinguistic negation)」、命題などのメタ表示に関する否定を ‘interpretive negation’、あるいは ‘metaconceptual negation’ と呼び、両者を併せて「メタ表示否定 (metarepresentational negation)」と呼んでいる。4.1.3 は、ほぼこの Noh の用語法に従っている。

4. 次は Conway Paradox と呼ばれるパラドックスの簡単な例である (Barwise (1989))。後の問いに答えなさい。

Suppose you have two poker players, Claire and Max, and each is dealt some cards. Suppose, in particular, that each of them gets an ace. Thus, each of them knows that the following is a fact:

σ : Either Claire or Max has an ace.

Now suppose Dana were to come along and ask them both whether they knew whether the other one had an ace. They would answer “no,” of course. And if Dana asked again (and again...), they would still answer “no.”

But now suppose Dana said to them, “Look, at least one of you has an ace. Now do you know whether the other has an ace?” They would again both answer “no.” But now something happens. Upon hearing Max answer “no” Claire would reason as follows: “If Max does not know I have an ace, having heard that one of us does, then it can only be because he has an ace.” Max would reason in the same way. So they both figure out that the other has an ace.

最初、クレアとマックスは(i)の事実(σ)を知っている。次に、ダナが二人に(ii)のように伝えるが、その内容は、二人がすでに知っている事実(σ)である。

i. σ : Either Claire or Max has an ace.

ii. Dana said to Claire and Max, “Look, at least one of you has an ace.”

ところが、ダナの発言の後では大きく状況が変わった。それはどのように変わったか。また、変わったのはなぜか。

ダナの発言の前は、クレアとマックスの事実(σ)についての知識は、次のように各自の個人的なものであった。

a. Claire knows σ .

b. Max knows σ .

ところが、ダナの発言の後では、事実(σ)は次のような共有知識に変わった。

- a. Claire knows σ .
- b. Max knows σ .
- c. Claire knows that Max knows σ .
- d. Max knows that Claire knows σ .
- e. Claire knows that Max knows that she knows σ .
- f. Max knows that Claire knows that he knows σ .
- g. Claire knows that Max knows that she knows that he knows σ .
- h. Max knows that Claire knows that he knows that she knows σ .
-
-
-

事実(σ)が共有知識に変わったのは、ダナの発言がクレアとマックスが共有する時空間の中で行われることにより、知識がおおやけ(public)なものになったからである。

こうした共有知識が生まれるには、情報が取り交わされる時空間としての場を会話参加者が共有していることが必須の条件である。別の例で見ると、例えば、教師が学生に次の授業は休講にするということを教室で直接伝えた場合が考えられる。この場合、情報を伝える場が共有されているので「次回は休講」という情報は教師を含めた全員の共有知識になっている。もし、授業中に伝えるのを忘れて、後で電話とかメールで伝えた場合、「次回は休講」という情報は全員持つことにはなるが、共有知識にはなっていない。ただし、メールでの連絡では、CC 欄に全員のアドレスを書き入れておけば、一種の疑似空間が共有されることになり、共有知識が生まれる。

○補足事項

- a. 共有知識は、mutual knowledge と呼ばれる。You Tube に Steven Pinker による動画を使った解説がある。

RSA Animate - Language as a Window into Human Nature

<http://www.youtube.com/watch?v=3-son3EJTrU>

●第5章

○演習問題の解答

1. 次の2つの文の違いについて述べよ。

a. I open the meeting.

b. I open the door. (Vanderveken (1990)).

(a)は遂行発話として成り立つが(b)は成り立たない。(a)を発語することで会議が開かれるという新しい事態が生まれる。(b)は発語するだけでは何も生まれない。自分でドアを開けながら(b)を発話すれば、自分の現に実行している行為を説明することになり、何か特殊なドアの場合、ドアを開けるという行為のデモンストレーションにはなるであろう。

1. “I intend to go.”というときの動詞 intend(意図する)は遂行動詞ではない。それはなぜか。

intend(意図)は示すことはできても、意識的に行うことができない。また、「意図する」ことは行為ではない。これは“Intend to go.”と命令文にできないことからわかる。

2. 以下の下線部は適切性の条件について言及している発話修飾表現の例である。それぞれの条件について言及していると考えられるか(Huddleston and Pullum (2002)).

a. It's going to be a hard winter, because the storks are migrating early.

b. Is Irene still in Rome, because I've not heard from her since August?

c. Since you're so clever, what's the square root of 58,564?

a.主節の発語内行為：主張、言及している条件：事前条件

b.主節の発語内行為：質問、言及している条件：事前性条件

c.主節の発語内行為：質問、言及している条件：事前条件

b、cとも質問という発語内行為を行う主節について言及している。まずbは「話し手は質問の答えを知らない」という事前条件について、cは「聞き手は質問に答えることができる」という事前条件について言及している。

4. 次のような発話はどのような発語内行為と解釈されるであろうか。

a. You will be sweet and help me, won't you? 依頼

sweet は kind の意味で、Will you be kind enough to help me? といった依頼文と同じ意味になる。

b. You may want to rethink your decision. 助言、提案

You want to rethink your decision. は命令口調の発話行為になる。may を加えることによって発話の力が弱められ、助言とか提案になる。

c. The gun is pointed at you, Mac. おどし

d. We'll come up with a promotion for you. You have my word. 約束
word は、約束という意味で使われており、 You have my word. は、「約束します」、「保証します」という意味になる。

e. Rental Agent: Okay, Mr. McDeere, if you'll sign where the X is and initial where it's marked. (*The Firm*) 依頼

I'll appreciate it if you'll sign where the X...のように理解すればよい。

5. 次は俵万智の短歌とその英訳である。後の問いに答えよ

「おまえおれに言いたいことがあるだろう」

決めつけられて

そんな気がする (俵・スタム (1989))

"I feel there's something

that you want to say to me,"

in that certain tone.

So now I have a feeling

that, yes, there must be something. (スタム訳)

i. 英訳の1行目のIと4行目のIはそれぞれ誰を指しているか。

ii. 引用符「」、 “ ”で示された発語行為はどういう発語内行為と解釈されているか。

iii. 最終的に、発語媒介行為としてどのようなことが達成されたと言っているか。

(i) 1行目のIは、話し手である作者に対し発語行為を行った相手、4行目のIは作者自身を指している。

(ii) そして2行目の「決めつけられて」は「断言」の発語内行為、

(iii) 「そんな気がする」は「聞き手は説得された」という発語媒介行為が達成されたことを示している。

英訳の場合も同様に二重引用符の部分が発語行為、 in that certain tone が発語内行為、そして発語媒介行為は最後の2行のように、I なる人物が説得されて考えを持つに至ることであると解釈できる。

英訳では、 that certain tone を用い、意図を明確に示すことなしに故意に曖昧にして、「断言」という発語行為の意味(発語内効力)を問うていると捉えることができる。ここで発語内効力が何であるのかを読者に推測させ、文脈効果を生じさせている。

6. for NP's sake(NP は、神とか聖人の名前)という慣用句は、一般に、発語内行為を強める働きをする。

次の(a)は、玄関のベルが鳴ったので、下着姿のスパイクに「出てくれ」と言う場面であるが、下線部はどういう発語内行為を強めているか。また、日本語

に訳すとすれば、どういう日本語が適切か。

a. William: Spike, see who that is...and put some clothes on for God's sake.

(*Notting Hill*)

また、(b)下線部はどのような発語内行為を強めているか。日本語訳はどうか。

b. Erin: I don't know what happened to me. I mean...God, I was Miss Wichita, for Christ's sake. Did I tell you?

(*Erin Brockovich*)

a. 懇願：(変な格好をして外に出られたら困るから) 頼むから、何か着てくれ。

b. 断言：これでも、ミス・ウィチタだったの、本当よ。

次は、パリ・コレクションに行くことになっていたエミリーに代わって、同僚のアンディが行くことになったので、エミリーがアンディに悪態をついている場面である。

Emily, to Andy: ..., do you know what really just kills me about this whole thing? [It]

Is the clothes that you're gonna get. I mean, you don't deserve them. You eat carbs, for chrissake (= for Christ's sake) ! (*The Devil Wears Prada*)

下線部 You eat carbs は、「苦勞して減量している私に代わって、炭水化物(carbs)を好きなだけ食べているあなたが、何でパリに行って高価な衣装をもらわなくちゃあならないの」とののしっている。つまり、「そういう衣装を身にまとうにはそれなりの努力、苦勞をしなければならない。何もしていないあなたにはそんな資格はない」という相手を否定的に評価する行為を行っていると考えられる。それに対応して、for chrissake も「炭水化物をパクパク食べているあなたには、(着ることどころか) 触ることもできないわよ」といった感じの強調になる。

○補足事項

a. 間接発話行為と会話の含意

間接発話行為を会話の含意によって説明することも考えられる。実際、ポッツ (Potts (2005) *The Logic of Conventional Implicatures*, pp.26-28) は、次の(2.29)の間接発話行為を「会話の含意」により説明している。

その説明によると、(2.29a)が、(2.29b)のような含意になるのは(2.31)のような推論によるという。

(2.29) a. Can you pass me the salt?

b. conversational implicature: pass the salt to me if you can.

- (2.31) a. Cooperative agents do not request information they already possess. Such requests do not increase the collective knowledge of the discourse participants and so always fail to qualify as informative, relevant, and sufficiently brief.
- b. If the addressee is not near the salt, then the speaker already knows that the answer to the literal reading of (2.29) is 'no'.
- c. If the addressee is near the salt, then the speaker already knows that the

- answer to literal reading of (2.29) is 'yes'.
- d. Hence, (2.29) must not be a question at all.
 - e. Some reflection on our current context suggests to the speaker that (2.29) must be an indirect way of asking for the salt.

ただし、これは、第2章 2.2.1 でみたグライスが提示している情報のやり取りに関する公準を使ったものではなく、情報を求める依頼の発話行為に関する公準を設定していると考えられる。すなわち、(2.31a)に従って公準を考えてみると、次のようなものが設定できる。

量の公準： 必要以上の情報を依頼してはいけなし、取る足りない情報、あるいは、必要でない情報を依頼してはいけない。

関係の公準： 関係のない情報を依頼してはいけない。

Can you pass me the salt?という情報を求める質問は、(2.31b, c)のような答えが分かっている状況では、これらの量と関係の公準に抵触している。したがって、協調の原理を前提にすると、話し手は質問をしているとは考えられない。そこで、特に(2.31c)のような状況では、情報を求める依頼ではなく、塩を取ってくれるようにという依頼行為と理解すれば、協調の原理は守られていることになる。

サールの間接発話行為の説明や、Brown and Levinson (1987)にもグライスの協調の原則とか公準を用いた説明がみられるが、情報のやりとりに関する公準ではなく、発話行為に関する公準が暗々裏に仮定されている。

●第6章

○演習問題の解答

1. 日常会話の中で、「依頼」はどのように行われるだろうか。実際の会話例から収集してみよう。その際、発話レベルではなく（一発話だけを収集するのではなく）、まとまった談話で例を集めよう。そして、異なる相手に対して（たとえば、友達に対して、目上の人に対して）どのような違いがあるのかも考えてみよう。

2. 下線部を日本語に訳してみよう。

(状況)Margaret はリハビリのためにセンターに来ている老女で、Millie はセンターのスタッフである。Millie はきっと二人が友達になるだろうと思って、Margaret に同じくリハビリのためにセンターに来ている Ruth を紹介する。Suddenly Millie said, “Wait right here. I’ll be back in a minute.” She returned moments later, followed closely by a small, white-haired woman in thick glasses. The woman used a walker. “Margaret Patrick,” said Millie, “Meet Ruth Eisenberg.”

The story of Margaret and Ruth from “A 4th Course of Chicken Soup for the Soul: 101 Stories to Open the Heart and Rekindle the Spirits”

下線はどのようにして間接的な言い回しではなく命令形を使っているのだろう。ポライトネスの観点から説明しよう。

下線部は何れも形式上は命令形であるが、「～しなさい」といった命令ではない。「ここで待つ」ことや「ルース・アイゼンバーグさんに会う」ことが聞き手のフェイスを脅かすと言うよりも利益になるために、話し手は「あからさまに言う」戦略を選択したと考えられる。

3. 次は、アリスとハンプティ・ダンプティとのある敬語表現を巡っての口論である。それはどのような敬語表現でどのようなポライトネス・戦略か。

‘So here’s a question for you. How old did you say you were?’

Alice made a short calculation, and said ‘Seven years and six months.’

‘Wrong!’ Humpty Dumpty exclaimed triumphantly. ‘You never said a word like it!’

‘I thought you meant “How old *are* you?”’ Alice explained.

‘If I’d meant that, I’d have said it,’ said Humpty Dumpty.

Lewis Carroll Through the Looking Glass

ハンプティ・ダンプティの **How old did you say you were?** という質問は、名前を尋ねるときの **What did you say your name was?** と同じく、ネガティブ・ポライトネス・戦略[7]の例である。これは、過去時制で視点を移動すると同時に伝達話法を使って、話し手を（年齢を尋ねる）FTA から遠ざけること

により、負担度を軽減するストラテジーである。会話でのやり取りでは、アリスは、敬語としての意味 **How old are you?** に取って、7歳半と答えるが、言葉は文字通りに意味すると考えるハンプティ・ダンプティは、そんなことは聞いていないとアリスを馬鹿にしているのである。**How old did you say you were?** が敬語表現になっていることが分らないと、この箇所のおもしろさも半減してしまう。

実際には、過去時制だけの **What was your name?** も用いられ、さらに、店で店員が、**What were you looking for?/What did you want/What size did you want?/Did you need any help?** のように過去時制を用いることがある。詳しくは、次のホームページを参照してください。

(http://www.esl-school.com/archives/2009/03/past_tense_for_politeness.php)

4. 次の会話の中の緩和表現を探してみよう。

a. A: **Would you like to go to dinner tonight, if you have time, Lucy?**

B: **That's a good idea, Bob, but well, actually I'm afraid I will be busy tonight.**

b. A: ちょっと悪いんだけど、もし時間があったら、帰りにケーキかなにか買ってきてくれるかなあ。

B: うん。多分大丈夫だと思うんだけど、ひょっとして残業が入ったら、ちょっと無理かもしれない。

c. Lorraine: Uh, Marty. This may seem a little forward, but I was kinda wondering if...if you'd ask me to the "Enchantment Under The Sea Dance" on Saturday? (*Back to the Future*)

a は、ボブがルーシーに、ディナーに誘って、ルーシーが断っているという場面である。誘う発話の緩和表現は、**"if you have time"** で、さらに**"Would you like to ~?"** といった相手の意志を尊重するような表現を使用して発話の力を弱め相手への負担度を軽減している。誘いを断る発言にも、直接的に断るのではなく、一旦受け入れる**"That's a good idea,"** 断定を避けたり、これから言うことが相手にとっていいことではないことを示す **"actually"** **"I'm afraid"** といった緩和表現が使用されている。

b の緩和表現は、依頼の前の前置きである「ちょっと悪いんだけど」「もし時間があったら」以外にも、対象をぼやかす「か何か」、断定を避ける「なあ」がある。答えの発言にも、断定を避ける「だと思うんだけど」「ひょっとして」「かもしれない」といった緩和表現が用いられている。

c は、ダンス・パーティに連れて行ってくれるよう依頼する発話であるが、各種の緩和表現を用いることにより、発話の力を弱めて相手への負担度を軽減している。次の疑問文の形をしたより直接的な依頼行為と比べるとはっきり分かる。

Would you ask me to the dance on Saturday?

まず、断り表現 **This may seem a little forward, but...**がある。さらに、**I wonder if...** や、その進行形、**kinda (= kind of)**などがある。過去時制はストラテジー [7]になる。

5. 日本語にはどのようなポジティブ・ポライトネス・ストラテジーがあるだろうか。ブラウンとレヴィンソンのポジティブ・ポライトネス・ストラテジーを参考にしながら、具体例をできるだけたくさんあげてみよう。

日本語におけるポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとしては、例えば、連帯感・共感を示す、あるいは、求める働きをする終助詞「ね」の用法がある。

例：

加賀は恣意策首を傾げた。「俺が犯人なら、そうはしないな。花月札を買いに行く客なんて月に何人いると思う？簡単に店員に顔を覚えられる可能性がある。つまり買うという手段はこの際つかえないわけだ」

そこまで喋った時、沙都子は「わかったわ」と手を叩く動作をした。

「それで茶道部に用があるわけね」

「そういうことだ」

東野圭吾『卒業』

「あの三人組が、絵を強奪しにきたんじゃないかって心配した人がいたみたいだね」と、哲が言った。

「無理もないよ。日本には一作しかないゼバスチャンの作品だもの」と、直がうなずく。

宮部みゆき『ステップファザー・ステップ』

滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』(第6章)に「ね」を含め、「よ」、「か」についての詳しい解説がある。

●第7章

○演習問題の解答

1. 下線部の語は、呼びかけ語か？もしそうであれば、コールとアドレスのいずれの働きをしているか？

a. Nina: Mr. McDeere! Uhm, Mr. Mulholland's called twice about his bills again.

(*The Firm*)

単独の発話として現れた呼びかけ語の例で、相手の注意を引くコールの働きをしている。

b. Mrs. Moralese, to Erin: My daughter, she bought a big house with a room for me.

(*Erin Brockovich*)

これは、エリンに対し **My daughter** と呼びかけているのではないので呼びかけ語ではない。**My daughter** をトピックにするために独立した名詞句として文頭に出し、それを代名詞 **she** で受ける構文である。

c. Lorraine, to her son: Good morning, sleepy head. (*Back To The Future*)

呼びかけ語の例。**sleepy head** は、「お寝坊さん」という感じで通例子供に用いる。挨拶ことばの後に現れて、アドレスの働きをしている。

d. Reporter, to Ann: Does Your Highness believe that federation would be a possible solution to Europe's economic problem? (*Roman Holiday*)

聞き手であるアンを指しているが、**you** の代わりに文法的主語として用いられしており、文の不可欠な要素であるので呼びかけ語ではない。

e. George, to his son: I know what you're gonna say, son. You are right.

(*Back To The Future*)

この **son** は、年上の者が、血のつながりのない年下の者に対し親しみを込めて用いる呼びかけ語の例。発話の最後に現れてアドレスの働きをしている。

f. Lily (a prostitute), to Sam: Hey! Hey, you. Hey, handsome. (*I Am Sam*)

呼びかけ語の例であるが、**you** を呼びかけに用いるとぞんざいな感じになる。**hey** の後で、相手の注意を引くコールの働きをしている。

2. 下線部の発話は、誓言、ののしり、のろい、いずれの行為か。

a. (真実の口(The Mouth of Truth)に入れた手が抜けなくなったとだましたジョーに対するアン王女の発言)

Ann, to Joe: You beast, it was perfectly all right! You never hurt your hand.

(*Roman Holiday*)

ののしりの例であるが、アン王女が使っているののしり語は、語感としては「いじわるねいけず」といったくらいの意味であろう。

b. Marty: Damn! I'm late for school. (*Back to The Future*)

誓言の例。

c. (カーナビに向かって)

GPS: Right turn ahead.

Rita: Right on Vermont? That'll be another twenty minutes, you idiot. (*I Am Sam*)

無生物である「もの」に対するののしりの例。

d. 銀行強盗が泣いている子供の母親に向かって：

Shut your damn kid up, lady.

形容詞として名詞句の中に組み込まれているが、**damn** は泣いている子供に対するののしりになっている。ちなみに、呼びかけ語としての **lady** は、このように聞き手に対しあまり敬意を払っていないコンテキストで用いられることが多い。

e. (ボスのエドと口論したあとのエリンと事務員ブレンダとの会話)

Brenda: Lovers' quarrel?

Erin: Oh, bite my ass, Krispy Kreme. (*Erin Brockovich*)

タブー語 **ass** が命令文の中に現れており、呪い(**malediction**)の例と考えられる。

f. William: ...Calm down. How about a cup of tea?

Anna: I don't want a goddamn cup of tea. I just wanna go home. (*Notting Hill*)

ののしりの例であるが、ののしりの対象は、**a cup of tea** ではなく、深刻な状況にあって、「お茶でもどうか」と悠長なことをいっているウィリアム、ないし、その行為に向けられている。

3. 呼びかけ語、誓言、ののしりの具体例を、映画のスク립トなどの会話例から収集してみよう。

最初にあげた引用元一覧のなかには手に入りやすい対訳形式のスク립トやテキストなど数多くあるので、その中から2, 3選んで探してみると良い。

4. 日本語には、英語のような誓言、ののしりは無い、あるいは、ほとんど無い、という人がいるが、あなたはどうか。

誓言とかののしり語について日本語と他の言語とを比較対照した研究はまだあまりないが、Wajnryb, Ruth (2005) *Expletive Deleted &#@*!: A Good Look at Bad Language*, New York: Free Press. の 12, Cross-Culturally Foul でかなり詳しく論じられている。

○補足事項

a. 英語のタブー語については、次のエッセイが参考になる。

Joel Achenbach 'Dropping the F-Bomb'

<http://www.dlackey.org/weblog/docs/Dropping%20the%20F-Bomb.pdf>

エッセイでは、不良グループを気取っている 6, 7 才くらいの子供達のグループで、タブー語を使ったののしり語の発話が、仲間入りするための儀式的行為になっている映画 *Hope and Glory* の場面が紹介されている。

Roger: You want to join our gang?

Bill: I don't mind.

Roger: Do you know any swear words?

Bill: Yes.

Roger: Say them.

Bill is stubbornly silent.

Roger: Well go on then. You can't join if you can't answer.

Bill: I only know one.

They laugh derisively.

Roger: Well say that one then.

Bill cannot get himself to say it, try as he will. They groan and jeer. Bill forces it out, the one that he heard on the bomb site.

Bill: Fuck!

They fall respectfully silent, exchange covert looks.

Roger: That word is special. That word is only for something really important. Now, repeat after me... Bugger off.

Bill: Bugger off.

Roger: Sod.

Bill: Sod.

Roger: Bloody.

Bill: Bloody.

Roger: Now put them together. Bugger off, you bloody sod.

Bill: Bugger off, you bloody sod.

Roger: OK. You're in. *Hope and Glory* (日本名:「戦場の小さな天たち」)